

## 手足口病の流行状況について ～警報発令～

### 1 概要

感染発生動向調査による手足口病の患者報告数は、平成28年第24週（6月13日～6月19日）に、定点あたりの報告数が6.74人（定点医療機関34カ所、報告数229人）となり、警報発令基準値の5.00人を超えましたので、警報を発令します。

平成28年の第24週までの患者数は913人で、年齢別では1歳が364人（39.9%）で最も多く、次いで2歳178人（19.5%）、6ヶ月以上12ヶ月未満110人（12.0%）、4歳70人（7.7%）、3歳68人（7.4%）の順となっています。

### 2 手足口病の患者発生状況

感染症発生動向調査事業において県内の小児科34定点医療機関の協力を得て、患者情報を週単位で収集し、全国の約3000箇所の定点情報と併せて分析し、県民及び医療機関に情報を提供しています。

#### 定点当たりの患者報告数（直近の7週間）

	週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週
		5/2 ～5/8	5/9 ～5/15	5/16 ～5/22	5/23 ～5/29	5/30 ～6/5	6/6 ～6/12	6/13 ～6/19
県	患者数	34	49	87	104	147	168	<b>229</b>
	定点当	1.00	1.44	2.56	3.06	4.32	4.94	<b>6.74</b>
全	患者数	184	279	428	568	592	810	1092
	国	0.06	0.09	0.14	0.18	0.19	0.26	0.35

※感染症発生動向調査システム上の警報の発令基準値 **流行警報：定点当たり5人以上**

第24週の保健所別定点あたり患者報告数は、八重山保健所が19.50で最も多く、次いで南部保健所7.13、中部保健所6.42、那覇市保健所6.14、北部保健所4.33、宮古保健所0.00の順となっています。

### 【手足口病とは】 5類感染症・小児科定点(34 医療機関)

原 因：コクサッキーA16 及び A6、エンテロウイルス 71 等のエンテロウイルス  
4 歳位までの幼児を中心に夏期に流行が見られる。

感染経路：咳、くしゃみによる飛沫感染、水疱・便に含まれるウイルスとの接触感染。

潜 伏 期：2～7日。ウイルスの便への排出は、症状が治った後も2～4週間にわたって認められる。

臨床症状：手のひらや足の裏、口の中などに2～3mmの水疱性発疹が現れる。基本的に軽症疾患であるが、まれに髄膜炎等の合併症を起こすことがあるので、頭痛やおう吐、高熱等の症状には注意が必要。

予 防：保育園や幼稚園などの乳幼児の集団生活施設における感染予防は手洗いと排泄物の適正処理。特にオムツ交換やトイレの後は、石けんで手をよく洗いましょう。